

京橋の印刷

7月5日1986・No.64

東京都印刷工業組合京橋支部
〒104 東京都中央区新富1-16-8
日本印刷会館3F 電話 552-1855
編集 近藤正弥
田島弘
柴田博

作者紹介 松原友規(二八八八—一九八三)明治二十一年松江市に生る。四歳より筆を持ち、谷文晁(たにぶんちょう)および文晁の弟子で曾祖父の松文忠(松江藩主・松平不昧公の絵師)の画稿の模写を始め、次第に写生に移ってゆく。二十一歳頃上京、一時川合玉堂に師事、本郷(岡田三郎助)研究所にてデッサン習得。己れの理念に基き、大自然と古典を師として、写生に没頭。大正中頃より昭和十二年まで、ほぼ毎年後援者による企画「石原求龍堂主催」などにより個展開催。大正十三年から昭和二十年まで短歌誌「潮音」に「太田水穂主宰」の表紙画を描く。昭和五十五年(九十一歳)東京セントラル絵画館にて個展開催。昭和五十八年五月六日没。享年九十五歳。昭和六十一年十一月十八日—二十三日、東京セントラル絵画館で遺作展開催予定。



「せきれい」

巻頭言

京橋支部支部長

小山英美

「光陰矢の如し歲月人を待たず」と言われておりますように、昭和六十年もその半ばが過ぎようとしております。

印刷の需要構造の変化は更に加速の度を増しつつあり、加えて不況の波の中で、皆様には企業の維持伸展のために日夜努力を重ねておられることと存じます。印刷を取りまく環境が厳しければ厳しいほど印刷工業組合の立派な運営と適切な指導が望まれる次第です。

新村理事長は組合運営の基本として「組合は業界の発展向上のために、組合員自身が和の精神をもって結束して運営するものである」と示されました。そのためには支部の中で組合員がお互いに腹藏のない意見を交換して、積極的に各種行事に参加し、協調結束してゆく姿勢が大事ではないでしょうか。

今こそ印刷に生きる「同根連枝」の絆を強め連帯の輪を拡げたいものと痛感いたします。

昭和61年 東印工組京橋支部通常総会開催

—新支部長に小山氏就任—

於・築地スエヒロ
四月十八日(金)

4月18日(金)、午後5時30分より、築地スエヒロ新館に於て支部総会が開催され、新旧役員交代が行われました。

司会の神林副支部長が開会を宣し、まず60年度に物故された故中村豊次・花崎 実・片山多平・江田清治の各氏のご冥福を祈つて黙禱をした後、森山副支部長が、来賓の方々に総会出席のお礼を述べて、開会の言葉を次のように話した。

「我々印刷業界は、現在非常に厳しい中を生き抜いています。お互いがその存在を認め合っているような、印刷組合であることを、私は常日頃念じております。本日は熱心なるご審議をお願いします。」

続いて小栗支部長が挨拶し、組合員や来賓の方々へ謝意を表しながら、

「お蔭様をもちまして、昭和59年5月に発足して早や2年経過しました。本当に支部事業の大切さが身に沁みて感じられるこの頃です。本日は私達執行部の最後の事業報告書を皆様に審議して頂き、成績表を出して頂きたいと思いま

す。」と述べた。

議事に移り、議長に湊地区長の中山氏、書記に八丁堀地区長の小倉氏が就任した。中山議長は挨拶の中で、総会の決議は出席者の過半数の賛同により決する旨や、事業報告等は事前配付につき、ポイントのみ説明する等の了承を求め、拍手で承認されると、小栗支部長が第1号議案の事業報告を次のように行った。

「第1号議案については御覧のとおりであります。我々の置かれている状況につきましても森山副支部長の挨拶にあったとおりであります。そこで私達がこの2年間でやってきたことを簡単に述べさせていただきます。59年に就任した際、私達が一番強く考えたことは、組合員間のコミュニケーションが非常に少ないのではないかとということに議論されました。これはすでに60年の総会でも皆様方にご報告致しましたが、第2年度も印刷会館の支部の部屋をただ改装しただけでなく、地区会等を通して多くの支部員に寄って頂いた。これが大きな成果だったのではないかと考えております。また支部主催や京青



来賓挨拶をする新村理事長

会の研修会等いろいろな機会を捉えて皆様に利用して頂きました。尚、本部に対する事業協力につきましても執行部では今までとは違った意味で、ただイエスマンの対応ではなく、一つ一つ吟味した対応をしてきた積りであります。一つには昨年の運動会の件、そして昨年末から今年にかけての営業士の件、非常に大きな問題として捉え、京橋支部としての方針を本部前執行部にぶつけ、支部執行部の議論をそのまま、本部への提言としてきました。結果的には大きな成果はありませんでしたが、ただ本部にそのままついてゆくのではなく、京橋支部の独自性といえますか、自主性を出してきたのは一つの成果ではないかと考えています。

その他中央区の工団連の事業につきましても、私達の工業文化展として捉え、商工課の援助のもとに立派な成果を挙げたと言えるかと思えます。その他いろいろありますが、大まかな点では今までにない性格であったかと考えております。尚、他に最終年度の構造改善事業や地場産業の問題につきましても次期の役員の方に引き継ぎたいと思いますが、今後この業界が充実するために真正面から取り組まねばならない問題ではないかと考えています。我々の問題として纏められなかった点を皆様の協力により今後継続して行かれますようお願いいたします。甚だ簡単ですが、2年間の総括としてご報告します。」

次に第2号議案の収支決算報告を、水野副支部長が数字の大きく異なる項目についてのみ簡単に説明中山議長により質問、採決が行われ、挙

手多数により可決された。

続いて福田監査から同決算報告の監査報告があり、会計処理が妥当且つ、正確に行われたことの確認を述べた。

第3号議案の事業計画については長島副支部長より、「従来と変らない施策ですが、ただ一つ支部の主体性と本部の施策の調和だけ新しく加えました。支部運営について組合員を生かしながら全体に協力してゆくような考え方から盛り込みました。」と説明された。

第4号議案の収支予算案は水野副支部長によって説明され、両案とも挙手多数で承認、可決された。

次に第5号議案として、次期役員選考についての経過報告が石沢選考委員長より行われ、「第1回を1月20日に開催し、その後3回に亘って協議を致しましたところ、三期に亘り副支部長の経験者であり、昨年まで全印工連の需要開発委員会の専門委員として活躍された、新川地区・高千穂印刷(株)社長の小山英美氏が、相応しいのではないかと全員一致で支部長候補者として推薦致します。」と結び、拍手多数で小山氏が新支部長として承認された。

議事終了後、新支部長以下8名の副支部長が紹介され、代表して小山新支部長が挨拶を行った。

「新川地区の小山でございます。責任の重さを考えます時、忸怩たるものがあります。私自身、勉強をさせて頂きながら大任を果したいと斯様に思っております。ここにお見えになって

おられます新村理事長が、先般4月3日の東印工組総代会に於きましてその就任ご挨拶の中で『印刷組合は印刷業組合員の発展向上のために組合員自身が運営をするものであります。和の精神を貫いて一枚岩となつて、組合員のための明るい運営を行いたいと思えます。』と概略斯様な力強いご表明がございました。全くその通りであります。印刷界を取りまく環境は非常に厳しく、また難しいものがございます。今こそ組合員の協調、連帯の和を強固にする時だと思えます。

これから任期中、私共執行部一同、力を合せて京橋支部発展のため微力ではありますが努力する所存でございますので、先輩、皆様方のご支援、ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。今度退任される小葉支部長始め、役員皆様の今日までの立派なご業績、そのご労苦に対しまして改めて敬意を表し、心から感謝申し上げます。

最後に皆様方のご繁栄とご健勝を祈念申し上げます、重ねて私共に対するご支援を賜りますようお願い申し上げます。簡単でございますが挨拶といたします。」(拍手)

続いて来賓の挨拶に移り、まず東印工組理事長・新村重晴氏が次のように述べられた。

「本日は京橋支部総会が無事終了され、また執行部の新旧役員が円滑に交代されました。誠にめでたうございました。特に小葉支部長初め今回退任される皆様方には大役のご苦労に對しまして心から敬意を表します。また本部とし



小山新支部長から新任の副支部長および新監査が1人1人紹介された

ましてもお礼を申し上げる次第です。有難うございました。今回新たに選出されました執行部の皆様には是非共、格段のご活躍をご期待申し上げます。

私事になりましたが大変恐縮ですが、私の父の代から本日お見えの石沢さん、斎藤さんをはじめ私自身も数多くの友人、仲間が、ずらっと並んでおられて本当に心うれしく、また頼もしく、このように京橋支部にこれだけの先輩、友人が

おられるということは私としましても本当に心強く感じている次第です。今回理事長に選出されるに当りまして、かねてより尊敬致しております小宮山さんに格別の力をお借りしたいということ、お願いに上りました。大変お忙しいということとは私も重々承知しておりましたけれども、まげてお願いしまして副理事長にご就任頂くことになりました。私としましてもこんなに嬉しいことはございません。また本部の執行部を編成するに当りまして、当支部の長島さんを常務理事としてご推薦を致しました。私からお願ひ致しまして、長島さんには構造改善対策委員長という大変な重任をお願いし、これも了承頂きました。本当に感謝をしております。先程も小山新支部長からのお話にありましたが、私は臨時総代会におきまして組合運営についての私の基本的な考えを申しのべ。皆様方のご賛同を頂戴致しました。先程充分ご説明を頂きましたので割愛させて頂きますが、皆様方に是非共、賛同を頂戴したい、そしてご後援を頂きたい、というふうに考えます。先程、長島さんから『ホロン』、全体と個というお話しを頂きましたが、おっしゃるとおりの組合運営の目指すところでございます。いかにバランスをとってこの理想を表現できるか、私共は大いに努力を致す覚悟でございます。よろしくお願ひしたいと思ひます。私共、就任以来取り組まなければならぬ問題が早速いくつもあります。只今申し上げた組合の原点に則りまして、何とかよい方向で、解決をしていきたいというふうな考え

ていますので、大支部である京橋支部の皆様方には是非共、今後小宮山さん、長島さん大いに応援して頂き、私共の執行部が何とかこの厳しい時期を乗り切ることが出来ますようにご支援を切にお願ひ致しまして本日の総会のお祝ひとお願ひの言葉とさせて頂きます。有難うございます。(拍手)

引き続き中央区工団連の宝田会長が挨拶に立ち、「最近、京橋、日本橋地域で土地が一坪1千万だ、2千万だと驚くべき単価で、売買されておられ、人を使って儲からない商売をやっているより、売って他に投資した方がよいのではないかと公然と口に出るようなも聞いています。大変困ったことだと思ひます。このような時にやはり組合という中で、皆さんがお互いに信頼し合つて一致団結これに対処し、行政機関の方にお願ひし、対策を講じるといふようなことで、必ずしもよくなるとは限りませんが、自分一人で悩むより組合というものを大切にして、これに力を貸してもらおうということによりよい対策を講ずればいかがかと私は思つております。

さて、今年は中央区工業文化展も4回目をこの秋に高島屋に於て開催することになりました。この文化展が成功するかどうかは、何と云つても印刷関係、製本関係この二つにかかつており、両組合が中心になって頂かないことにはうまくいきません。どうぞ今年も地場産業のPRの意味からも立派な工業文化展になりますようご期待申し上げるともお願いする次第です。今後の印刷『京橋』の益々のご発展と皆様方の商



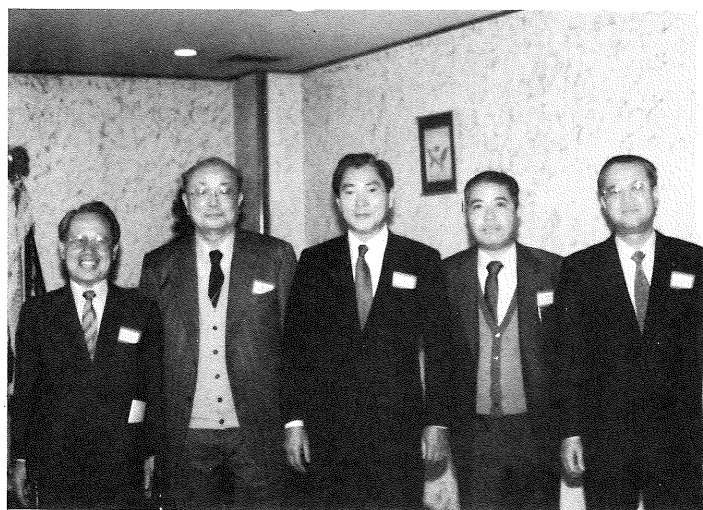
新執行部役員が1人1人紹介される度に盛んな拍手が送られた

売の弥栄とご健勝を祈念しまして、簡単ですがお祝いの言葉とさせて頂きます。(拍手)

最後に中央区深沢直人商工課長が挨拶され、「私も商工課長の職が6年目となり、こうした機会にも数多く出席してありますが前任者が6年半やっておりますので、まだ少ないですがそういうことで区の行政では皆様に大変お世話になっています。私はいろいろな業界の方、関連団体の方と接して、やはり京橋印刷の組織には非常

に有能な人材が多いということを感じます。これまで石曾根さん、児玉さん、小葉さんの各執行部の方といろいろお付き合いさせて頂いてますが、非常に素晴らしい方が揃っておられると常々感じ入っております。やはり人間の作っている社会ですので、人の能力や努力によって拓けない道はないのではないかとと思うにつけて、この京橋支部の発展は私共にとつて期待されますし、間違いないだろうと心強く思っています。

さて今年度も皆さん方のお手伝いをさせて頂いていますが、これは私共が一人で臨むことでしたら何の効能も発生しないと思います。皆様方のご協力で初めて成果が挙がるのではないかと考えています。先程宝田会長からお話がありました工業文化展の開催や、また産業会館がこの4月にオープンしましたのでご利用いただきたい。更にまた来年6月を目標に勤労者の共済制度を準備しておりますが、これもいろんな機会に皆様にお知らせしていこうと考えています。それから恒例の宿泊研修会、種々の経営セミナー等も考えて実施していきますが、皆様方のご協力を頂きながらやってゆきたいと思えます。小葉支部長や執行部の方には大変お世話になり感謝申し上げます。また新しい小山執行部の方々にも力を貸していただきまして一緒に頑張って本区の地場産業の中心である印刷の発展のためにやって参りたいと存じますので、何卒、よろしくお願い申し上げます。簡単ですがお祝いの言葉とさせて頂きます。有難うございました。



た。(拍手)

以上、室田副支部長が閉会を宣して支部総会は終了し、つづいて懇親会が開催されました。小宮山副理事長が挨拶の後、乾杯。100名を越す賑やかな総会後のパーティーとなり、一同、沢山のご馳走を前に、懇親の輪が出来ました。宴会は盛上りをみせて、石曾根常務理事の中締め後も続き、最後に大締めで8時過ぎの解散となりました。(編集部)

副理事長就任のぐあいさじ



小宮山印刷(株)

小宮山 敬之

京橋支部組合員の皆様、日頃は何かとお世話になりながらも御無沙汰しておりますが、お元氣でお過ごしのことと存じます。

さて昭和六十一年度は組合役員の改選期にあつておりますが、小葉支部長には、京橋支部では初めての昭和世代の支部長として持てる英知と旺盛なる行動力に加え、深い洞察力を持つて組合事業の推進に多大の成果を挙げられました。支部長とそれを補佐された支部役員の方々には、敬意を表するとともに心からお礼を申し上げます。

その後任には、支部役員選考委員会の全員一致の推薦により、新川地区高千穂印刷(株)小山社長を次期支部長候補者に推挙致しました。然しながら小山社長からは、再々の要請にも拘らず固辞され、委員一同苦悩の淵に追ひこまれた時期もありましたが、更に勇を鼓し、ご迷惑を省みず就任を要請した処、委員一同の願いを聞きとどけて頂きました。受諾された時点で今まで固辞された数々の事情を打ち明けられ、逆に委員一同は、そのような事情がありながらの無理

強いをした軽拳を反省したものであります。従つて小山さんの受諾の蔭には、己れを棄てて友情に応える心情以外の何物もなかつたかと、委員一同反省とともに感激し、また感謝した次第であります。

このように友誼と誠実の小山支部長の前途に幸あることを確信し、支部長を補佐される多くの支部役員のご労苦に対し心からなる敬意を表するとともに、組合員皆様のご参画を軸にしたご支援・ご協力をお願い申し上げます。

さて本部役員の改選につきましては、昨春秋、次期理事長候補者として千代田支部新村印刷(株)新村社長が推薦を受け、新村社長も受諾の意向であるとの報道がなされたことは、皆様ご案内の通りであります。私事になりますが、新村さんとは大正生れの同世代の仲間として、そのような会員の一人としてお付合ひさせて頂いており、京橋から副理事長就任のご希望があれば、新村さんが使いやすい世代の中から立派な人を、推薦する労はいとせませんよと、声をかけたこともありました。ところが年が明けた一月中旬、

新村さん直々に来社され、私に副理事長就任の要請がありました。

支部事業はさておいても、本部事業には経験も浅く且つ最近の事情にもうとく、その任に非ずとして辞退申し上げましたが、更に強いお勧めもあり、たまたま支部役員選考委員会のさなかでもありましたので、石沢・斎藤の両先輩や小葉支部長などの各委員のご推挙もあり、加えて弊社役員会の諒承もあり、甚だ浅学非才その任にないことを承知しながらもお引受けの決意をした次第でございます。

その後四月三日の東印工組総代会において新村内閣が選出され、その後に開催された第一回理事会において副理事長の要職を拝命致しました。また新村理事長就任の挨拶でも発表された通り、印刷組合は当然のことながら組合員自身の組合であり、組合結成の理念にもあります様に、組合員相互の親睦と融和を基として、そこに組合員相互の共存共栄があり、また業界の社会的地位の向上が目指せる訳であります。従つて施策の審議過程にあつては充分議論を尽すことは当然であります。が、全業者と党の立場に立つて事業運営が進められていくことが大切であります。このようにお願い致します以上、執行部は一枚岩の団結をもって運営に当り、仮初にも皆様に誤解を与えることのない様、襟を正していきたいと理事長以下誓いを新たにしました次第であります。

従いまして私も就任した以上は、微力ではあります。但し、内部事情の修得や、本部事業のあり

方や委員会運営等の勉強・研鑽に努める覚悟で
ございます。

所管は教育委員会、地場産業振興計画推進委
員会そして技術委員会でありますが、いずれの
委員会にも在籍したことはなく、全くの未経験
者で、委員長始め各委員のご協力を頂きながら
それぞれにベストを目指して、ベターの結果に
近づき得ます様、更に努力と自戒を深める所存
でございます。

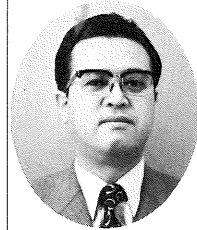
幸い京橋支部よりは小山支部長以下理事・総
代役員の方々、そして本部常務理事には長島さ
んに献身的なご就任を頂いており、寔に力強い
限りでございます。

また理事長の代理として総会に出席した折、
下谷支部、文京支部そして日本橋支部の支部長
さんからは暖かいお言葉と、強力なるご支援の
ご挨拶を頂いており、新村内閣に寄せるご友情
とご期待に感謝している次第でございます。

京橋支部組合員の皆様、重ねて申し上げます。
私の就任要請の内側には京橋支部および日本橋
支部を含めた中央地区の伝統的背景とご支援を
配慮した新村理事長のお気持があったと受け止
めて居ります。組合事業は益々多難にして変化
の最中なかにあります。皆様方の代表として組合運
営に挺身する新村内閣に対し、心からなるご友
情を賜わります様お願い致します。

末筆になりましたが、京橋支部の益々のご発
展と組合員皆様それぞれのご事業のご繁栄と
ご健勝を祈念致しまして、就任のご挨拶と致し
ます。

常務理事就任にさいして



株式会社 大秀社

長 島 一 磨

この度、はからずも京橋支部において私が東
印工組本部の常務理事としての重責を担うこと
となりました。当初は常設委員会委員長のプロ
トは担当しないという条件でしたが、その後の
成り行きにより、現在予定されている第三次構
造改善事業にかかわる委員会の委員長という大
変難しいお役目をお受けすることになり、その
責任の大きさに、無事任務を果せるかどうか、
いささか戸惑っているところです。中小企業と
はいっても、小社もそうですが零細企業が多数
を占める中小印刷業界において、第三次構改の
基本的方針となっている経営戦略化構想が、果
してどこまで理解され、また業界に適合し得る
か疑問とするところでもありますが、今後の検
討に待ちたいと思います。

いづれにしましても、東印工組という組織が
よってたつところの組合員の皆様の、その形態
と規模を平均像としてどのように把握るかに
よって事業計画も変わってくるでしょうし、委員
会のあり方も違ってくると思います。

幸いにして京橋支部からは、本部副理事長と

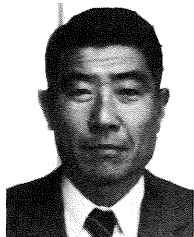
して小宮山敬之先輩が出ておられ、また小山支
部長、大竹・白橋両副支部長をはじめとして強
力な役員の方々が選出されており、その上、銀
座地区の児玉副支部長を構改委員会副委員長と
して迎えることが出来ました。今後は以上の
方々のご援助とご協力を頂き永い二年の任期を
微力ながら無事務めたいと存じます。
そのためにも、是非支部組合員の皆様の率直
なご意見と暖かいご叱正を頂きたくお願い申し
上げます。

支部会議室使用料金改定

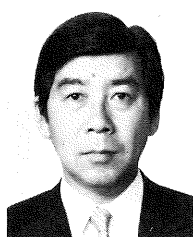
。地区会、青年会は二千円、これに準ずる
会は三千円です。(原則として三時間以
内)

。支部員の個別企業で会議の場合は、五千
円。接客用の場合は一万円です。(同三
時間)支部員の皆様のご利用をお待ち致
します。

昭和61・62年度京橋支部執行部



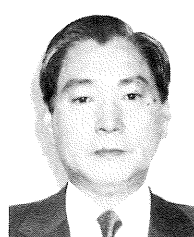
副支部長
荒川龍治氏
誠文社印刷(株)
533-4345
月島4-14-7
(総務)



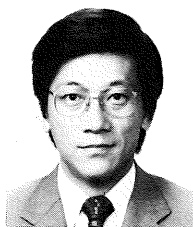
副支部長
白橋達夫氏
(株)白橋印刷所
551-1181
八丁堀4-4-1
(会計)



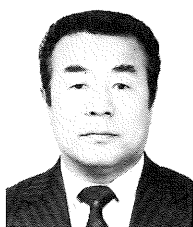
副支部長
大竹次郎氏
(株)大竹印刷所
551-1444
新川1-6-6
(総務)



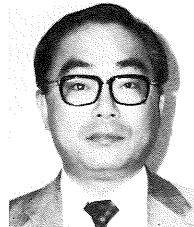
支部長
小山英美氏
高千穂印刷(株)
553-1511
新川2-7-6



副支部長
岩尾純一氏
(株)一九堂印刷所
542-0191
築地1-9-5
(総務)



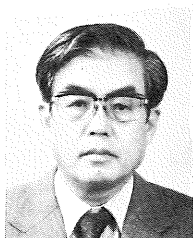
副支部長
佐藤勝男氏
文寿堂印刷(株)
552-8571
入船2-9-7
(総務)



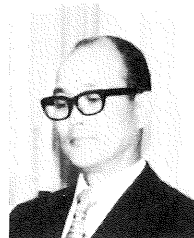
副支部長
児玉昭太郎氏
(株)京屋
541-1901
銀座3-10-7
(総務)



事務局・書記
岩本久人
東印工組京橋支部
552-1855
新富1-16-8



監査
柴田博司氏
正進社印刷(株)
552-7671
新富1-16-11
(支部報担当)



監査
田島 弘氏
聖文堂印刷(株)
553-2665
湊2-16-19
(支部報担当)

各地区 地区長紹介

京橋地区長	(印刷)教育委員	荒木 徹氏	荒木印刷(株)	京橋1-11-6	562-5746
銀座地区長	構造改善対策委員	松本 正孝氏	橋本印刷(株)	銀座2-15-11	541-6363
新富地区長	厚生委員	鈴木 幸男氏	大東印刷工芸(株)	新富1-15-8	552-8341
築地地区長 (支部報担当)	公害労務委員	近藤 正弥氏	(株)日刊食料新聞	築地5-2-1	541-7250
入船地区長	資材委員	生野 茂男氏	弘報印刷(株)	入船1-5-11	552-9731
湊地区長		中山 英男氏	(有)中山印刷所	湊2-7-7	551-2937
八丁堀地区長	厚生委員	小倉 昭夫氏	(株)相互美術印刷本社	八丁堀4-2-7	552-4881
新川地区長	頁物印刷委員	三好 徹氏	三好印刷(株)	新川1-5-17	553-3331
月島地区長	小企業振興委員	渡辺 都紀夫氏	(資)渡辺製版印刷所	勝どき3-4-19	531-2321

京橋支部印刷人青年会

定時総会開かる

4月23日 於・築地スエヒロ

4月23日(水)、6時半から築地スエヒロ9階にて、京青会の年次総会が開かれました。
 宇野会長の挨拶のあと、議事に移り、60年度事業報告、収支決算報告に続き監査報告のあと、新会長選出が行われ、(有)岸印刷所の岸健作氏が推薦され、拍手の内に承認されました。



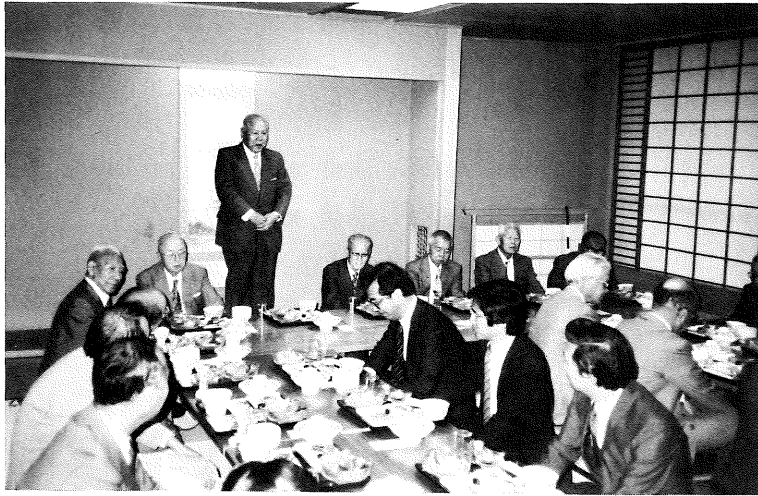
新会長就任の挨拶をする岸健作氏(岸印刷所)

岸会長の挨拶に続き、61年度事業計画と収支予算案の説明があり、承認された後に新入会員として、新富地区・正進社印刷(株)高橋俊茂君、入船地区・永井印刷工業(株)永井保君、八丁堀地区・(株)白橋印刷所横山明夫君、新川地区・石井治夫君、築地地区・小森印刷(株)小森彰君の5名の紹介が行われて議事を終了しました。

来賓挨拶として小山新支部長から54年の小宮山支部長時代に京青会が創設された時の担当副支部長であったことや、当時の「不透明の時代」として京青会への期待が寄せられ、また今日まで立派に活動を続けて育っていること等についての話があり総会は終了しました。

続いて別室に移り、懇親会が行われました。司会は例年の如く、銀座地区・文海堂の松岡君の軽妙な挨拶に始まり、小栗前支部長の乾杯の挨拶のあと新旧会長と新旧支部長の握手があり、一同、盛り沢山のご馳走を味わいつつ歓談に移った。程なく本日の演芸として、落語家の「文字助」の笑い話に誘い込まれて、皆真剣な面持ちで聞き入って、商売とは言え、さすが話術のプロに感じ入ったようでした。

この日は参加者も多く、52名中約40名もの多数で京橋支部からも大竹・白橋各副支部長も参加して、挨拶をする等、賑やかな総会でした。



顧問・相談役・参与の会、幹事会を合同開催

6月4日(水)
於・京橋会館

6月4日(水)、6時から京橋会館に於て、支部新執行部により開催しました。

大竹副支部長の司会で小山新支部長が挨拶を行い、「支部行政を預り責任の重大さを痛感致しておりますが、各地区役員や副支部長の皆様の協力のもとに、中央区の行政に対しても、印刷団地や工場用地の問題を含めて連けいを深めたい。又今秋には中央区工業文化展の開催が予定されており、皆様の協力のもとに成功させたい。又今度、斎藤顧問の「勲六等单光旭日章」受章が発表されて、京橋支部にとっても喜ばしい事であります。」と挨拶した。

続いて、石澤顧問が代表して挨拶し、新執行部のご苦勞をお願いした。続いて各地区長の紹介で新幹事が挨拶し、乾杯は斎藤顧問の音頭で、67名が一斉に杯を上げた。

当日は、久しぶりに和室での懇親会であったので、顧問・相談役・参与の皆様もくつろいで、上機嫌の面持ちで、話に花を咲かせていました。小宮山副理事長による中締め後も各々話はずみ、八時過ぎ解散となりました。

○有機溶剤取扱いに対する監督署の

姿勢について(お知らせ)

去る6月5日、印刷業に於ける有機溶剤の取扱いについて、中央労働基準監督署の島田、福山両監督官と芝崎公害労務委員長及び、千代田日本橋、京橋3支部長との懇談の機会を持ちましたが、席上監督署側より、

①巡回指導を近々に再開する。(無予告)

②違反企業に対する是正勧告のフォローをし、今年中に何らかの措置を取り、整理したい。

との意向が明らかにされ、又これと併せて、監督署の立場、就業規則等の調査、指導の実施についても言及されました。以下、懇談の要点を取り敢えずご報告して今後のご参考に供したいと思えます。

- (1) 有機溶剤について、監督署では、この6月から立入り調査を行っていますが、対象業種は印刷、軽印刷、建設、塗装関係であり、規模は17〜18名以上の事業がその対象となります。調査は事前連絡なしに突然行われますが、有機溶剤については、検査の上、あくまでも改善の指導をするのが一番の目的であり、厳格な規制を行おうとするものではないとの感触を得ております。又、有機溶剤作業主任者の資格を持っているか、どうかも一つのポイントになりそうです。就業規則について
- (2) 就業規則、三六協定、賃金計算、時短の問題等についての指導が中心になる模様です。

東印工組・京橋支部協催

「齋藤喜徳氏を顕彰する会」

6月10日(火)
於・竹橋会館



「齋藤喜徳氏を顕彰する会」は、ご当人の人柄を表わすかのような爽やかな好天に恵まれて、お濠端の新緑が美しく水面に映える竹橋会館11階の見晴らしのよい「孔雀の間」にて、5時30分より、東印工組と京橋支部の初めての協催で来賓や友人、知人が150名もつめかけて盛大に開かれました。

当京橋支部からも53名が参加し、齋藤顧問の永年に及ぶ労働者技能検定委員としての功績が認められて「勲六等单光旭日章」を受章されたお祝いを述べにかけつけました。

まず小葉相談役の司会により、野村東印工組副理事長の開会の言葉が始まり、新村東印工組理事長が齋藤氏の温厚な人柄を紹介し、「文字組版、特に欧文組版の練達の師であり、又技能検定の大功労者であります。今後も益々元気で業界の指導に力を貸して頂きたい」と挨拶した。続いて来賓の奥山滋東京工芸大学画像工学部教授や宮城荘三郎印刷機械貿易(株)社長からも人柄や功績を讃える祝辞が続いた。このあと松島前東印工組理事長からは記念品が、そしてお孫さんからは花束が贈呈されました。



これに応えて齋藤顧問は「いろいろな仕事をさせて貰えたのは、先輩、友人、組合員や東印工組職員のご援助やご指導があったからこそである。このような立派な会を催して頂き、身に余る光栄であると感謝している。今回の叙勲受章を機に健康に注意し、少しでも業界のためになる仕事をしたい」と感謝の気持ち述べた。

このあと伊坂一夫東印工組顧問の乾杯で祝宴が繰り広げられ、皆さん爽やかに歓談に話はずませた後、石沢支部顧問の中締め後も多くの人々が楽しんでいて、7時半頃、小山支部長の次のような閉会の言葉で皆さんをお見送り致しました。「私達の敬愛する齋藤喜徳さんの受章を顕彰する会に、多忙の折、大勢の方のご参加を頂き、長時間に亘り、ご丁寧なご祝辞や数々のご厚情を賜りました事を心から御礼申し上げます。お蔭をもちまして盛会の内に祝賀の会を持ち得ました事を重ねて感謝申し上げます。閉会のご挨拶を申し上げます。有難うございました。」

(編集部)

危ない会社の見分け方——(2)

—— 実戦的経営術 ——

60・10・16 (中央区役所商工課セミナー)

講師 S A B コンサルティング(株)
中小企業診断士 井上 敬 三

これから私がお話しする事は本にもものつてない事でこういう経営者は要注意だという事例です。

○ 倒産する経営者の特徴

まず1番目を付けておく事で間違いなく当るのは、社長の自家用車の事です。これを毎年取り換えている会社とは取引きしない方がいい。営業の車は違います。これは一日に何百キロも走る車もありますからこれは取り換えるのが当然かもしれません。社長の車を毎年又は2年おきに取り換える会社は、その80%が財務内容が悪いのです。不動産屋みたいに、恰好で乗らなくてはいけない所がありますから20%は良い部分があります。普通、私は信用調査を頼まれますとこれしか調べません。会社の財務内容なんか取引銀行に聞いても全部うそですから信用できません。だから会社へ行って「社長はいい車に乗っているねえ、どの位で取り換えるの」と社員等に聞いて、いや毎年のように取り換えますよ。」なんていう所とは取引しない方がいい。

い。

私が現在300社扱っている企業でも財務内容の逼迫している所程、社長の車を取り換えてます。財務内容の安定している会社、先程話した4社ある優良会社の社長車は最高級車を買います。そして10年乗ります。大事に10年乗ります。が、国産車の最高の車に乗っています。私が乗っけてもらう時も「おい先生靴ぬげや」ですからね。そしてビニール袋に入れさせる位です。まあこれは行きすぎとしても、こういう因果関係があるか知りませんがよく当ります。多分社長の見栄張りの性格が経営にも現れるのかもかもしれません。こういう会社と取引する時は気をつけられた方がいいのです。不渡りをいつか喰らうという覚悟でやられた方がいいです。

第2番目は実印の汚い会社、これもよくないです。いや多いのです。その会社に行きますと実印や銀行印が朱肉でもって手許まで真赤というのがあり、押印するのにすべて苦勞するという事があります。そのほか実印を簡単に渡す

人。特に融資なんかに来て、係員に実印を貸して下さいと言われると、「はい」といって、すぐ渡す人が多いのです。この傾向のある人の会社も比較的つぶれるのですよ。私は顧問先の社長には、実印は絶対人に渡してはいけなと言っています。全部自分で押せという事です。

そして一回使ったら必ず拭いておく事です。此頃、印相判といつてはやっていきますが、印相判というのは「しるし」がない、普通注文すれば直線の凹みや凸点が付いてますが、この印相判というのは何よりも汚さないという事なのです。だから印相判を買われたら印は付けない方がいい。ハンコに傷を付ける事ですから。ヤクザは昔からこのしるしはついていせん。彼らは親分からこう教えられるのです。「しるしが付いてないと上・下が判らないから必ず押す時、ハンコを見ろというのです。その時にもう一回押すべきかどうか考えられる」とこういうわけですから、印鑑をみるとその会社の内容がどうかは大体のところは判ります。そして自分の会社の顔でもある印鑑が欠けているとか壊れたまま使っていると、無神経な方が多いという事です。

3番目は、何時でも絶対責任を取れない事です。どこへ行っても絶対自分が悪いという事を言わない人間がいるものです。誰々がどうしたからうちはどうなったとか、うちの従業員が働かないから売上げがないのだとか、経営者が必ず他人のせいにする人がいますね。口癖にする人がいるのです。ですから私はつぶれていく会社でヤクザから守っていく会社で、次の二つだ

けは受けない事にしています。

まず第一は話を聞きに行った時に、いや誰々がこうした等：いわゆる他人のせいにする人間。それともう一つはお年寄りを大事にしない人間。この二つだけは絶対受けません。お金を何百万円積まれてもやりません。それ以外は人間なんてなくて七癖、皆癖を持っています。人のせいにはかりする人の会社をうけると必ず私もあとで悪く言われますので、そういう結果責任をとれない人は結局つぶれる割合が多いのです。

4番目これは議論のある所ですが、目標を持つていない経営者。でかい夢はいけません、自分の会社をどこまで持つていくんだという事を仲々言えない経営者程、倒産してゆく例が多いのです。5年先、10年後にこうしたいとか、うちはこういうふうになりたいんだという事を言えなければいけないのです。ある程度の夢でいいのです。どの程度の規模にしたいかを言えない経営者は比較的簡単につぶれていってます。それは要するに目標がありませんから、自分のことがどういふふうになっているのか分らないのです。

5番目に気を付けて頂きたいのは、法人ではないのに名刺や看板に法人記号が入っている所です。これは多いのです。皆さんは名刺をもらつて、(株)とか(有)とか入っているのです、そのとおりだと思つたらとんでもない事です。登記所へ行くと全然登記もしてなかった所が(株)や(有)とか付けている場合が多いのです。ですから、初めて取引をする時は、必ず登記所へ行って調べ

た方がいいのです。登記をせずにこんな事をやる所は大体つぶれます。現実私が扱つた中に7社あります。7社も名刺に株式会社とか刷つていて登記してないという事なのです。取引する以上は必ず騰本は取り寄せるべきです。騰本は取引所へ行って試してみてもいいのですから、従業員でも行かせて調べておかないと、最近では勝手に法人名をつけるケースが多くなっています。

最近の築地本願寺風景

日刊食料新聞五月十二日付コラムより転載

▼築地本願寺、人も知る天下の名刹である。親鸞聖人を開祖とする浄土真宗本願寺(京都・西本願寺)の別院で、元和三年(一六一七)、十二代門主准如上人が浅草横山町に別院を建てたのが江戸進出の沿革である。現在地への移転は明暦三年(一六五七)の振袖火事以後で、浅草横山町への再建が許されなかったことがその因。ちなみに、同寺は大正十二年の関東大震災まで前後八回類焼の憂き目を見ており、現在のインド風鉄筋寺院は、火事はもうコリゴリと、昭和十年、それまでの木造建築を不燃建造物に改めたところからのものである▼このインド風寺院がこのたび、思わぬところに余恵をもたらした。この八日打ち上げた同寺境内での「ギリシヤ悲劇」の舞台装置に、もつてこいの威力を発揮したというのがそれ。主演平幹

6番目は先にも触れましたが、会社の事は言わないで自社の得意先の事ばかり言う人です。いやうちはどこそこと取引しているからと、全て他所のいい会社の名刺ばかり出す。このケースはひつつかかると金額はすごく大きくなります。負債総額が大きくなる傾向があります。(以下次号へ)

二朗、配する女優をわざわざ本場ギリシヤからという凝りようでは、日本風寺院よりはインド風の方がいいにきまつている。一五十年後の野外劇場に役立とうとは、これこそ本当の「お釈迦サマも気がつくめエー」である▼それにしても「父を殺し、母を妻」にした畜生道のギリシヤ悲劇(オイディプス王)に、よくもまた神聖な境内を開放したものである。人間はしよせん地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六道に迷う哀れな生きものは仏法だけとした、手前味噌の布教のつもりなのかも知れないが――▼まさに輪廻転生である。芝居はもともと屋外(河原)のものであった。また、演劇の発祥に築地が深くかわつていた(築地小劇場)歴史も思い出す。本願寺境内の野外劇場もある意味では立派な輪廻である▼ニュアンスはともかく、さながら後年の「芝居小屋」の向うを張るかのごとく「寺小屋」なる呼称を用意した先人の明にも最敬礼する。(妙竹輪)

地区だより

築地地区 五月例会 於 築地市場内 磯野家

昭和61年5月16日

新地区長の事務所が、築地市場の中にある関係で、例会としては初めて「磯野家」の二階で開催した。普段はなかなか行けないと思っっている人が多いのだが、決してそんなことはなく気軽にに行ける場所としてあげられる。

市場内にある食堂や料理店は最近のTVでもいろいろ紹介されており、味の方は一〇〇%請合いの場所として選んだつもりでいる。

新地区長は所用のため定刻より遅れて出席。早速、例会を開催した。議題は次のとおり。

一、新入会員の紹介

二、支部役員初顔合せの報告

三、前地区長・幹事に対して記念品の贈呈

四、秋の旅計画の内容説明

新入会員は中国関係の情報誌を発行している日中企画の平尾義親社長と青木猛専務が出席したが、平尾社長より、自己紹介を兼ねて挨拶があった。この結果互友会員は二十三社となった。

支部新役員会は十四日開催された時の報告で新地区長は本部委員としては「公害労務委員」として選任され、支部の任務分担としては「京橋の印刷」の編集委員に選任された。また小山支部長の編集方針として、会員名簿の発行を含め、スポンサー無しで発行するよう指示があったことも報告。小森前地区長と鈴木・西村・山

中の各幹事に対して、恒例により慰労を兼ねて記念品を贈呈し、二年間の任期が無事終了したことを感謝した。秋の旅行プランは、今までの経験や希望や意見を参考に検討したもので、場所は茨城県大洗方面、期日は九月の二十七、八日の両日とし乗り物はゆつたりとした、大型バスを利用することを説明、楽しいものになるよう協力をお願いして報告を終る。
このあとは早速神田さんの乾杯の音頭で宴会に移り、磯野家心づくしの魚料理に舌鼓を打ち久々の楽しい一夜を過ごした。(近藤記)

支部の動き

1月6日 支部事務局、仕事始め

1月8日 中央区工団連新年会、於中央会館

小葉支部長他役員出席。

1月10日 支部新年臨時総会、於東京会館

145名出席。会費1万2千円。

1月20日 次期役員推薦委員会、於支部室

石沢・斎藤顧問、小葉支部長、長島副支部長、小森地区長が出席し協議。

1月21日 次期役員推薦委員会、於支部室

1月23日 部長・監査・地区長会、於支部室

◇本部連絡事項

1、推薦委員会委員の選出について

2、印刷営業士の国家認定への課題

各支部の意見、全印工連三役会、常任会に於ける意見

3、キオスク年賀状問題について

4、各委員会運営について

・教育委員会、営業士、生産士講習会の開催、印刷営業基本講座37名受講

・地場対、新技術研修部会、頁物新技術研修会3月8日開催

・商業委員会、中期ビジョン施策の具体化、印刷業のサービスについて、印刷業の利益管理と原価管理について、「第19回商業印刷業者の集い」

参加依頼、会費1万円、京王プラザ

・資材対策委員会、厚生委員会と印刷機械保守契約制度の意見交換実施、富士フィルムとの懇談結果について

PS版の建値の交渉は個々にやる

・事務用印刷委員会、見積りフォームの収集と周知について

・小企業振興対策委員会、「小企業組合員の声」3月末に本部見解

・構造改善委員会、「新技術研修会」の3月開催

・東京青年印刷人協議会、東青協10周年記念事業3月開催、記念誌作成

5、支部提案事項(新宿・墨東支部)

印刷営業士の国家認定問題の一時凍結を労働省に申し入れて欲しい

◇当面する支部事業について

・印刷業実態調査票の回収徹底を2月末迄に行う。1月13日現在未提出62

社

・顧問・相談役・参与の会1月28日開

催、營業士国家認定問題を諮問

・各地区役員の早期選出について

1月23日 東製工組京橋支部新年会、於築地

東天紅、小葉支部長出席、祝辞を述べる

1月27日 次期役員推薦委員会、於支部室

1月28日 顧問・相談役・参与の会、於支部室

16名出席し意見交換を行う。營業士問題。

1月31日 次期役員推薦委員会、於支部室

高千穂印刷(株)社長、小山英美氏に内定。

2月3日 本部營業士問題説明会、於健保会館

小葉支部長出席。

2月4日 本部支部長会、於日本印刷会館

室田副支部長代理出席。

2月8日 部長・監査・地区長会、於修善寺温泉・新井旅館、会費1万円。

◇本部連絡事項

1、印刷營業士問題、国家検定のは非は東印工組は一時凍結とする。

2、各委員会運営について

・頁物委員会、「完全版下作成システムの展望」研修会3月実施、キヤノン取手工場見学会の参加。

・地場対、コンパルト部会、出力センター構想について、販売価格、製品発表、発売について討議。

・地場対、経営幹部研修部会、経営幹部カリキュラムの策定について

・地場対、新技術研修会、「電算植字システムの解説」研修会開催

・東青協、青年のつどい、3月8日開

催、於高輪プリンスホテル

◇当面する支部事業について

・次期各地区役員の内定状況について

・中央区、工団連共催、優良事業主、優良永年勤続従業員表彰式について

・通常総会、4月18日築地スエヒロ

2月13日 日本橋・京橋ドルッパ旅行団打合せ

於箱崎エアシテイターミナル

2月14日 京橋電気安全協会、於京橋消防署

2月14日 本部主催「第19回商業印刷業者の集い」、於京王プラザ、京橋支部50名参加

2月13日 16日 京橋支部印刷人青年会見学旅行

於伊香保温泉・福一旅館、19名参加

小葉支部長参加、竹久夢二記念館、足利学校、栗田美術館等を見学し研修。

2月19日 支部長会、於日本印刷会館、室田副支部長代理出席。

2月25日 臨時部長・監査・地区長会、於支部室

◇当面する支部事業について

・通常総会進行・役割分担を打合せ

・印刷業総合実態調査票の最後回収残り19社2月末迄に行う、未提出の場合10%組合費加算となる。

2月26日 中央区、工団連協催、優良事業主、優良工業従業員表彰式、於中央会館

小葉支部長他出席、事業主6名、従業員34名が京橋支部では表彰を受ける。

3月3日 次期役員推薦委員会、於支部室

次期理事候補者8名(斎藤喜徳氏、石曾根

啓悦氏、田島一弥氏、小葉忠昭氏、長島一磨氏、白橋達夫氏、小山英美氏、大竹次郎氏)を本部へ推薦する。

3月4日 支部長会、於日本印刷会館

小葉支部長出席。

3月6日 本部新技術研修会、於大同生命ビル

小葉支部長他支部員40名参加。

3月8日 本部研修会「完全版下作成システムの3年後、7年後の展望」於中小企業会館

関連6メーカー担当者参加、2千円。

3月8日 東青協10周年記念、プリンティングフェスタ'86「青年のつどい」於高輪プリンティングフェスタ開催、京青会16名参加、記念名簿作成、350名参加。

3月10日 印刷産業政治連盟総会、於竹橋会館

小葉支部長他出席。

3月18日 東商中央支部会員懇親会、於八重洲富士屋ホテル、小葉支部長出席、講演会「21世紀へ向けての日本の進路」講師・瀬島龍三氏。

3月20日 部長・監査・地区長会、於支部室

◇本部連絡事項

1、印刷營業士国家認定問題について

2、練馬支部、板橋支部の分離と定款の一部改正について、4月1日より改正

各委員会運営について

・組織対策特別委員会、役員表彰規程の見直し、加入増強運動について

・印刷教育委員会、61年度事業計画案

の策定（営業士、経営、技術）
 ・地場産業振興事業推進本部、61年度各部会振興事業の確認

4、男女雇用機会均等法の概要について
 ◇支部提案事項―印刷営業士国家認定への統一見解について（新宿支部）
 ◇当面する支部事業について

・通常総会開催 4月18日、資料作成 4月10日迄

・次期役員への引継ぎ事項打合せ

4月4日 支部会計監査会、於支部室、水野会計、福田・宇津木両監査、小栗支部長出席。

4月7日 中央区立産業会館落成式、於東日本橋、小栗支部長他出席。

4月9日 支部会計事務引継ぎ、於支部室

4月11日 京橋電気安全協合理事会、於京橋消防署、岩本書記代理出席。

4月18日 京橋支部通常総会、於築地スエヒロ会費5千円、約110名出席、本文参照。

4月21日 中央区工業文化展準備委員会、於中央区役所、荒川副支部長出席。

4月23日 京橋支部印刷人青年会定時総会
 於築地スエヒロ、約40名出席、小栗前支部長、小山新支部長、大竹・白橋各副支部長、岩本書記出席。

4月24日 中央区主催、新規学卒者歓迎会
 於中央会館、小山支部長他出席。

4月25日 '86年ドルツバ展日本橋・京橋支部旅行団出発、於箱崎エアターミナル

京橋支部より16名参加。

5月8日 '86年ドルツバ旅行団帰国。
 5月13日 支部役員打合せ、於支部室
 5月14日 部長会、地区長会、於支部室

◇当面する支部事業について

1、支部役員任務分担、本部委員の決定
 2、顧問・相談役・参与の会、幹事会の合同開催、6月4日、京橋会館

3、斎藤喜徳氏受彰祝賀会、6月10日、竹橋会館、本部と京橋支部協催。

4、中央会館連宿泊研修旅行、6月15、16日。

5、新年臨時総会会場の選定について。

6、支部名簿の発行について、広告廃止

5月22日 東製工組京橋支部定期総会、於都勤労福祉会館、小山支部長出席し挨拶する。

5月27日 本部総代会、於霞ヶ関ビル35階。
 5月28日 中央区工団連常任理事会、於中央区役所、小山支部長他出席

支部員の異動
 加入組合員（61年4月）
 日中企画(株) 明石町1-3（明石ツインクロス203号）、平尾義親殿、築地地区

編集後記

▼小山新執行部が胎動を始めた。その第一はスポンサー無しで発行することであった。こうした支部報は大なり小なりスポンサーにお世話になるのが一般的であるが、思い切ってそれを止めたのである。スポンサーにご迷惑

がかかるからというのが理由だ。スポンサー一社あたりの広告料や交際費は莫大になるそう、こうした悪習慣を無くしたいというのがネライであるが、この莫大な数字はやがて我々が購入する機材や製品にオンされるのであるから、当然といえば当然の話だから、徒（あだ）おろそかにできない。

▼しかし、このことは反面で編集子泣かせてある。本誌だけで三頁分の埋め草を探がさなければならぬからだ。そんなことを言っていて泣いたのでは面子にかかわるのでご安心あれ。

▼このことをスポンサーの営業マンに話したら、両手を挙げて賛成だった。みなさんも大事なら、会社も大事。いつも平重盛の心境でいる？営業マンにとっては嬉しい話です、と本音を吐露して呉れた。

▼本号から表紙をガラリと変えました。歴史と伝統のある光輝ある京橋支部として、前号まで素晴らしい表紙で飾られてきましたが、ネタ切れとなり、水墨画を採用しました。季節に合せたつもりですが、乞うご意見。

▼本号から編集子が変わりました。前任者の尾島・神林の両先輩ご苦労様でした。本号からは田島・柴田・近藤の三人で発行します。近藤は本紙の編集に初めて採用されました。本業が新聞のため、いささか肌目の荒いところがあります。そこは田島・柴田両先輩の指導よろしきを得てやるつもりです。（近藤記）